



特別支援における外国語活動

～児童の特性に応じた授業の実際～

中富良野町立中富良野小学校

久保 稔

特別支援学級で外国語活動を行う意図

○楽しい活動が多い。

→意欲を高める・興味や関心が狭い

○体を動かす活動が多い。

→粗大運動や協応運動などが苦手

○視覚に訴える教材が多い。

→視覚優位・耳からの情報が入りにくい

○コミュニケーション活動が多い。

→表情から気持ちを読み取るのが苦手

新学習指導要領での位置付け

特別支援教育小学部・中学部指導要領 第4章 外国語活動

1. 児童の障害の状況に応じて、指導内容を適切に精選するとともに、その重点の置き方等を工夫する。
2. 指導に当たっては、自立活動における指導との密接な関連を保ち、学習効果を一層高めるようにすること。



一人ひとりの障害の状態等に応じてICTを適切に活用しながら、効果的に支援することが求められている。

中山晃先生(愛媛大学)との共同研究

外国語活動でのねらい

- ◎情緒の安定や解放(心理的な安定)
- ◎対人関係能力の育成(人間関係の形成)
- ◎SST(ソーシャルスキルトレーニング)
(コミュニケーション)
- ◎感情コントロール(心理的な安定)

外国語活動に必要な要素

1. 児童の実態把握
2. 興味を引く教材
3. ICT機器の活用
4. 日常の指導事項の整理

1. 児童の実態の把握

○得意なこと

- ・体を動かすこと
- ・英語が好きなこと
- ・ゲームが好きなこと
- ・物を作ること
- ・興味のあることには集中できること

○不得意なこと

- ・言葉で表現すること
- ・興味が狭いこと
- ・人前では極度に緊張してしまうこと
- ・集中力が短いこと
- ・話を聞くこと

2. 興味を引く教材

◇NHKの教育番組

◇英語に関するDVD ◇アニメ

◇トランプ ◇双六 ◇カルタ

◇粘土 ◇ドミノ ◇パズル

◇絵を描く ◇楽器

◇サッカー ◇野球

3. ICT機器の活用

○パソコンや大型テレビを用いて

- ・YouTube
- ・フラッシュ教材
- ・読み聞かせ
- ・NHKの教育テレビのサイト(クイズ)

4. 日常の指導事項の整理

- ・リズム遊び
- ・歌
- ・読み聞かせ
- ・動作化
- ・シアター
- ・運動
- ・休み時間の遊び

※日常の指導事項と効果的に結び付ける。

外国語活活動の実践例

例1)

○絵を描くのが好き △想像するのが苦手

↓ 想像しなくても楽しく描ける活動

“Draw a Monster”

例2)

△興味が狭い △興味のない活動はしない

↓ 興味があることを用いつつ、様々な活動を取り入れる

“Touch the base” “Concentration”

例3)

△勝ち負けにこだわる

↓ 勝ち負けのないもの

“誰でもタッチリレー” “What’s missing?”

例4)

△目を合わせるのが苦手

△人と話をするのが苦手

↓ シアターを取り入れつつ、自信をもてる
ような活動を

“BINGO” “Self-Introduction”

What’s missing?

～何がなくなったかな？～

授業の様子



カルタ取り



神経衰弱



成果と今後の課題について

○歌やチャンツに合わせて行う活動が、子どもたちの実態に合っていた。

○ICTを用いることで、興味や関心を高めることができ、意欲的に活動する姿が見られた。

◇個々の良さを生かした活動の構成。

◇個別の目標と外国語活動の関連性。

◇より効果的なICTの活用方法の習得。

◇SSTと外国語活動の関連性の強化。